

東北ワイン 傾け映画を

岩手・宮城・山形のワイナリーの商品

ワインを味わいながら映画鑑賞を楽しんでもらおうと、大手シネコン「ティ・ジョイ」（東京）は運営している劇場で岩手、宮城、山形3県の赤ワインをオリジナル商品「シネマリアージュ」として発売した。映画とワインを掛け合わせ、ぜひいたく時間を演出する試みに東北のワイナリーが協力した。

辛口と甘口で計3種類のハーフトルを、4月28日から各2000円で販売。辛口は仙台秋保醸造所（仙台市）と高島ワイナリー（山形県高島町）、甘口はエーデルワイン（花巻市）が手がける。いずれも山形県や岩手県産のブドウを使う。高島ワイナリーの高橋和宏営業部長は「2時間ほどの上映の間も飲み疲れない

シネコン「ティ・ジョイ」全国18館で発売 「復興への思いに共感」

ものを選んだ」と説明。エーデルワインの佐藤竜太営業部長は「いつもよりゆっくり楽しんでもらえる機会になりそう」と話した。

ティ・ジョイは埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、京都、大阪、島根、広島、福岡、大分の11都府県で劇場18館を運営する。2022年の全館の来場者数は約1040万人に上る。

東北に施設はないが、東日本大震災の被災地を支援する一般社団法人「食のみやぎ応援団」（仙台市）の働きかけで今回の企画が実現した。

仙台秋保醸造所の毛利親房社長は「全国の人においしさを知ってもらえるきっかけになる」と期待を寄せる。

ティ・ジョイによると、

に加え、東北の食材を使ったおつまみの販売も検討するという。

国産ブドウを使った日本ワインを売り出す映画館は全国でも珍しく、他社との差別化を図りたい考え。今後、東北のワイナリーの白ワイン、シャンパン、シードル提供できればうれしい」と語った。



全国の映画館で発売したワインを掲げる（左から）毛利社長、佐藤部長、高橋部長